

お鶴・市太郎

中津市長 奥塚 正典

鶴市のお祭りと言えば、花傘鉾が全国一の距離 30km を巡行する中津市が誇る夏祭りです。小学生の頃、このお祭りが山国川大井手堰築造のため進んでわが身を捧げた「お鶴・市太郎」親子の献身に由来することを知りました。話を聞くにつけ悲しく切なく親子に対し尊敬の念を抱きました。

親子への感謝は代々引き継がれ、水の恩恵を受ける広い地域で毎年供養がなされてきました。井堰を守るため人柱を立てるなど、今となっては非科学的で不合理に見えますが、お米作りにおいて水の供給がどれほど大切なものであるかを示しています。それにしても責任感が強く人柱になろうと決心する地頭・湯屋弾正、それを知り自ら進んでその身代わりを申し出るお鶴と市太郎親子、それぞれの深い思いを察すると時代を超えてあまりにつらく心揺さぶられます。

7月に西日本を大豪雨が襲いました。200人を超える人の命が亡くなる痛ましい出来事でした。水は人に恩恵とともに大きな被害を及ぼすことがあります。自然の猛威は、時として人間の力や技をはるかに超えます。現代も水害に備えることの重要さと難しさは変わっていません。鶴市の物語は、水難が昔も今も変わらず大きな危機管理の課題であることも教えてくれます。

今年も鶴市花傘鉾は、多くの参加者のもと沖代平野一帯を巡行し、祭りに歴史を積み重ね古人への感謝をさらに深めます。この秋、国民文化祭で鶴市の物語が市民ミュージカル山国



花傘鉾巡行

川奇譚「鶴市愛歌」として公演されます。自然の厳しさに対峙し、人と人の命をかけた愛おしい関係が問いかけられる物語は、現代人にも訴えるところ大でしょう。人々に愛され続ける悲哀の「お鶴・市太郎」。大きな感動を与えてくれると期待しています。市民の皆さん、11月18日一緒に見ましょうね。